

## 戦争プロパガンダ：ニュースの連鎖に“物語を植え込む”

【訳者注】前置きにある通り、これは12年前の論文だが、アメリカの戦争プロパガンダのからくりは全く変わっていないとして、著者が再録したものである。ただ buzzwords (偽キーワード) だけが、オサマ・ビン・ラディン、大量破壊兵器から、IS、イスラム・テロリストに変わり、その CIA との関係を隠したまま、この神秘的で残忍な存在が「世界の出来事の理解のカギであるかのように宣伝されている」。

人はこれを読むと、給料を普通の何倍貰っても、アメリカ政府の役人にだけはなりたくないと思うのではなからうか？ 民間ヤクザの方がはるかにましである。

By Prof. Michel Chossudovsky  
Global Research, May 23, 2015



著者より：

この論文は2003年1月、イラク侵略が始まる2か月前に、初めて発表されたものである。その後それは、私の著書 *America's "War on Terrorism"* (Global Research, 2005) に収録された。

これを書いたときのメディアのニセ情報のバズワード (もっともらしい、偽キーワード) はオサマ・ビン・ラディンと大量破壊兵器だった。戦争プロパガンダの中心的バズワードは、2011年のオサマ・ビン・ラディンの“公的死”以来、変わった。今日、メディアのバズワードはイスラム国、ISIS、ISIL、ジハード、イスラム・テロリストである。

---

ペンタゴンの軍事プランナーたちは、戦争プロパガンダの中心的役割を痛切に知っている。ペンタゴン、国務省、それに CIA から出発した恐怖とニセ情報キャンペーン (FDC) が、今始まっている。真実のあからさまな歪曲と、すべての情報源の組織的な操作は、戦争プランニングの切っても切れぬ一部である。9・11の後を追って、国務長官ドナルド・ラムズフェルドは、“戦略的影響局” (OSI) を創り出したが、これはその批判者からは“ニセ情報

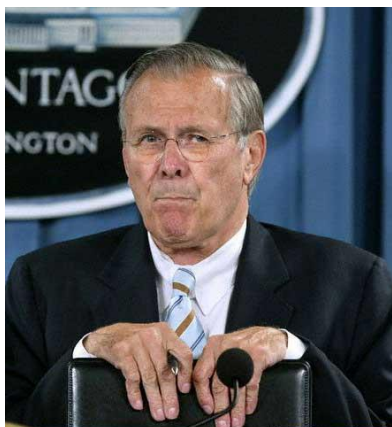
局”と呼ばれた——

国防省は、我々はそうするのが必要なのであり、外国では虚偽である物語を——世界中の世論に影響を与えるために——現実に植え込まねばならないのだと言った<sup>1</sup>。

そして突然、OSIは正式に解散した——政治的圧力と、「その目的はアメリカの利益を追求するために故意にウソをつくことだ」という“厄介な”物語が、メディアから出てきたためだった<sup>2</sup>。「ラムズフェルドは一步後退して、これは弱ったと言った<sup>3</sup>」しかし、この明らかな回れ右信号にもかかわらず、ペンタゴンのオーウェル流ニセ情報キャンペーンは、機能的に手つかずのまま残った——「国防長官はここであまり正直ではなかった。軍事プロパガンダにおけるニセ情報は戦争の一部である<sup>4</sup>」

ラムズフェルドはその後、記者会見で、OSIはもはや名前としては存在しないが、「この局の意図された機能は失われていない<sup>5</sup>」ことを確認した。(ラムズフェルドの正確な言葉はここを見よ：<http://www.fas.org/sgp/news/2002/11/dod111802.html>)

ペンタゴンとつながった、多数の政府部局や情報ユニットが、プロパガンダ・キャンペーンのさまざまな構成部分に絡み合っている。事実がひっくり返される。「政権交替」を狙う戦争行為が、「人道主義的介入」とか「民主主義の復興」として触れ込まれる。軍事的占領や市民の殺戮が「平和維持」として宣伝される。市民の自由の抑圧が、いわゆる「反テロ法」との関連において、「国内安全保障」や市民の自由を守る手段であるかのように言われる。そして、このような操作された現実の蔭で、ニュースの連鎖の中で「オサマ・ビン・ラディン」とか「大量破壊兵器」という言葉がしきりに使われ、それが世界的出来事の理解のカギであるかのように宣伝される。



イラクの侵略に至る重要な“計画段階”の中で、国内と世界の世論をねじ曲げることは、戦争アジェンダの肝要な一部であり、戦争プロパガンダはあらゆる段階において、つまり、軍事行動の前、その只中、その後の残酷な結末を通じて貫かれる。戦争プロパガンダは、戦争の本当の理由と結末を分からなくするのに必要なのだ。

OSIが論争のあおりで、結局、解散することになった(2002, 2月)数か月後、ニューヨーク・タイムズは、このニセ情報キャンペーンが依然として健在であることを確認し、このように報じた——

[ペンタゴンは] 一般世論と、友好また中立関係にある諸外国の政策立案者に影響を与えることを目指した、ひそかな作戦を遂行するように、アメリカ軍に秘密の指令を出すことを考えている。…この提案は、軍が、たとえばドイツのような友好国の場合、秘密のプロパガンダ指令を実行すべきかどうかについて、ブッシュ政府の間で激しい論争を引き起こしている。…この論争は、あるペンタゴンの高官によれば、「長期間の影響を与えるには、どんなメッセージを、どのように送るかという、わが国の戦略的な意思疎通をめぐるものだ。…我々は、友好的・中立的諸国に入って行って、世論に影響を与えるための手段、能力、訓練を備えている。それは我々には可能で、うまくやっているとすることができる。これは、そうすべきだという意味ではない<sup>6</sup>」

## 真実をねつ造する

この方針を継続するためには、このような連日、ニュース連鎖へと送り込まれる“ねつ造された真実”が、消すことのできない真理となって、幅広く、政治とメディアの合意事実にならなければならない。このように見れば、企業メディアは——軍 - 情報機関とは独立して活動していても——この展開される全体主義的システムの一つの道具である。

ペンタゴンと CIA との緊密な連携において、国務省はまた、それ独自の“ソフトセル”（市民向け）プロパガンダ・ユニットを開設した。そのヘッドは、対市民外交および市民問題担当国務次官で、広告産業で有能な **Charlotte Beers** であった。ペンタゴンと連携しながら、ビアーズは、9・11 事件の直後に、国務省プロパガンダ・ユニットの責任者に任命された。彼女の受けた指令は、「外国の反米運動を阻止すること<sup>7</sup>」で、国務省での仕事は——

対市民外交（取り込むこと、情報を与えること、および重要な国際的聴衆）が、市民問題（米市民に対する行き届いた奉仕）や伝統的外交と、調和的に行われて、アメリカの利益と安全がますます確保され、世界におけるアメリカのリーダーシップのための道徳的基盤が確立されるようにすることである。（<http://www.state.gov/r/>）

## CIA の役割

“恐怖とニセ情報キャンペーン”（FDC）の最も強力な構成要素は、CIA につながっていて、CIA はひそかに、個人的な財団や、CIA の後援するフロント組織を通じて、作家、ジャーナリスト、メディア評論家などに助成金を送っている。CIA はまた、多くのハリウッド作品の規模や方向づけに影響を与えている。9・11 以来、ハリウッド映画の 3 分の 1 は戦争映画である。「ハリウッド・スターと脚本家たちは、CIA と相談し、実物のテロ攻撃について軍から情報を得ながら、愛国主義の新しいメッセージに貢献しようと躍起になっている<sup>8</sup>。

Phil Alden Robinson 監督の *The Sun of All Fears* は核戦争のシナリオを描くものだが、これはペンタゴンと CIA 両方からの推薦と支持を受けている<sup>9</sup>。

ニセ情報は、大手の日刊紙、雑誌、TV チャンネルのニュース室で、CIA 職員から、日常的に“植え込まれて”いる。広告とは別に、会社はしばしば“ニセ物語”を創りだすのに利用される。9・11 の出来事に関して、Chaim Kupferberg によって注意深く述べられた記録記事がある——「比較的少数の、つながりの強い番記者がスクープを提供すると、それは比較的少数の主流ニュース・ソースで、ニュースに取り上げられる。するとそこで議論の主要ポイントが決まり、その“公的事実”は、ニュース連鎖の基本的データとして神聖視される<sup>10</sup>」

CIA の援助によって、ひそかに創作されたニセ情報もまた、外国のさまざまな情報代理店を通じて送り込まれる。9・11 以来、それらは“テロ攻撃”と言われるものに関する虚偽情報の、連日の拡散という結果となった。ほとんどすべての報道ケース（英、仏、インドネシア、インド、フィリピン等）において、「テロリスト・グループと言われる者たち」は、「オサマ・ビン・ラディンのアルカーイダと繋がっている」と言われた——もちろん、アルカーイダが CIA の作ったものだという（情報部レポートと公的文書に十分に記録されている）事実を認めることはなかった。

### “自衛”という公的原理

告げられたイラク侵略へあと数日か数十日となった、この危機的時期に、プロパガンダ・キャンペーンは、「アメリカが攻撃されている」という幻想の維持に照準を合わせている。この“ねつ造された事実”は、主流メディアだけでなく、多くの代替インターネット・メディアサイトによっても中継されて、この戦争を、正真正銘の自衛行為のように見せながら、その広い戦略的・経済的な目標を、注意深く隠している。

やがてプロパガンダは、戦争の正当化、戦争を仕掛けることの政治的合法性を展開するようになる。この“公的な事実”は、G・W・ブッシュが演説で何度も言ったように、いわゆる先制的な“自衛の戦争”“自由を守るための戦争”の、広い“人道主義的”前提に基づいたものだ：——

「我々は自由を愛するがゆえに攻撃されている。…そして我々が自由を愛し、拘束のないことを愛し、あらゆる人命を尊重する限り、彼らは我々を傷つけようとする<sup>11</sup>」

国家安全保障戦略（NSS）に謳われているように、先制的な“防衛戦争”原理と、アルカー

イダに対する“テロとの戦い”は、ペンタゴンのプロパガンダ・キャンペーンの、2つの基本的な組み立てブロックである。その目標は、“先制的軍事行動”に出ることだが、その意味するところは、2つに分類された敵——“ならず者国家”と“イスラム・テロリスト”——に対する“自衛”行動としての戦争である：——

「地球的規模のテロリストとの戦いは、期限の決められない地球的事業だ。…アメリカは、そのような者たちが完全な形を取る前に、台頭する脅威に対して行動するだろう。

「…ならず者国家やテロリストは、通常的手段を用いて我々を攻撃しようとは考えていない。彼らは、そのような攻撃が失敗することを知っている。その代わりに彼らは、テロ行動と、潜在的には、大量破壊兵器の使用に依存している…

「こうした攻撃の目標は、我々の軍隊だが、それは戦争法規の主要な規定の一つを正面から破って、一般市民に向けられる。2001年9月11日の損失によってわかるように、一般市民の大量死が、特にテロリストの狙いであり、これらの人命損失は、もし彼らが大量破壊兵器を手に入れて使用するならば、指数関数的にさらに甚大なものとなるだろう。

「合衆国は長い間、我々の安全に対する十分な脅威があった場合には、これを阻止する先制的行動を取る権利を、主張してきた。脅威が大きいほど、行動しないことのリスクは大きくなり、我々の自己防衛のために先制行動を取るべき理由は、さらに説得力を増す。…我々の敵によるこのような敵対行動を、予測して防止するために、合衆国は、必要とあらば、先制的行動を取るであろう<sup>12)</sup> (国家安全保障戦略、ホワイトハウス、2002、<http://www.whitehouse.gov/nsc/nss.html>)

## ニュース連鎖の中にニセ情報をフィードする

戦争プロパガンダはどのように実行されるのか？ いろいろなニュース源（公的な「国家安全保障」言明、メディア、ワシントンに本拠をもつシンクタンク、などを含む）から出た2種類の“目の玉の飛び出す”言明が、連日、ニュース連鎖の中に、フィードされる。その出来事のいくつかは（仮想テロリストに関するニュースを含めて）、情報部局によってねつ造されたことが見え見えにわかる。このような言明は、単純で耳に入り易い“バズワード”によって支えられ、それらがニュースねつ造の舞台設定をする——

**バズワード No. 1.** “オサマ・ビン・ラディンのアルカーイダ”が、ほとんどの“テロとの戦い”に関するニュース物語——「と言われる」「未来の」「想定される」「現実の」テロ攻

撃を含め——の背後にある。ほとんど口にされないことは、この外部の敵アルカーイダが、CIAの“情報部アセット（財産）”であって、密かな作戦に使われることである。

バズワード No. 2. “大量破壊兵器”（WMD）という言明が、“テロの国家スポンサー”——すでに WMD を持っていると言われる、イラク、イラン、北朝鮮など——に対する“先制的戦争”を正当化するために用いられる。イラクの場合、十分に証拠のあることだが、WMD と生物兵器攻撃についてのニュースのほとんどは、ねつ造されたものである。

“WMD”と“オサマ・ビン・ラディン”という決まり文句が、一般市民の間で、日常の現実的な話題になる。飽きるほどに繰り返すことによって、それらは通常の人々の意識の内部に浸透し、現在起っている出来事の、個人的な認識を形成する。騙しと操作を通じて、このように人民全体の精神を形成することによって——機能するデモクラシーという表向きの口実のもとで——事実上の警察国家形成のための舞台が用意される。言うまでもなく、戦争プロパガンダは反戦運動を弱体化する。

やがて、“テロ攻撃”とか“大量破壊兵器”とかについてのニセ情報が、恐怖の雰囲気徐徐につくり出し、それは揺るぎない愛国精神と国家への支持を要求し、その政治的・軍事的な役を演ずる役者が動員される。

ほとんどあらゆる国家的ニュース報道で繰り返されることで、この聖痕のように強調された WMD とアルカーイダは、本質的に一つの教義のように機能し、アメリカの征服戦争の原因と結末について、人々の目をくらますと同時に、単純で、疑問の余地のない、権威的な“自衛”を正当化する。

（以下、省略）

## Notes

1. Interview with Steve Aduato, Fox News, 26 December 2002.

2. *Air Force Magazine*, January 2003, italics added..

3. Aduato, *op. cit.* italics added

4. *Ibid*, italics added.

5. Quoted in Federation of American Scientists (FAS) Secrecy

News, <http://www.fas.org/sgp/news/secretcy/2002/11/112702.html> , Rumsfeld's press interview can be consulted at:

<http://www.fas.org/sgp/news/2002/11/dod111802.html> .

6. *New York Times*, 16 December 2002.

7. *Sunday Times*, London 5 January 2003.

8. Ros Davidson, Stars earn their Stripes, *The Sunday Herald* (Scotland), 11 November 2001).

9. See Samuel Blumenfeld, Le Pentagone et la CIA enrôlent Hollywood, *Le Monde*, 24 July 2002, <http://www.globalresearch.ca/articles/BLU207A.html> .

10. Chaim Kupferberg, The Propaganda Preparation for 9/11, *Global Outlook*, No. 3, 2003, p. 19, <http://www.globalresearch.ca/articles/KUP206A.html> .

11. Remarks by President Bush in Trenton, New Jersey, «Welcome Army National Guard Aviation Support Facility, Trenton, New Jersey », 23 September 2002.

12. National Security Strategy, White House, 2002, <http://www.whitehouse.gov/nsc/nss.html>